機器操作･接続部位について

接続は、前項の様に測定する「フレーム電流」の回路に「直列」接続を行いますが、それら計測用配線(ケーブル)の接続先及び、名称について解説を行います。また、メータの指針ズレの調整方法についても手順をご説明致しますので、測定前等確認を行い微調整を定期的に行う様心掛けてください。

【各部名称と接続例】

①:電流計本体(直流電流10μA測定用メータ)

②:指針微調整ダイアル

③:添付「計測用配線」φ3.5プラグ接続用ジャック

④:フレーム電流(10μA以内)測定用配線(添付配線以外使用時)接続用

※接続する機器や回路をご確認の上ご利用下さい(通常は使用しません)

⑤:ガードバー

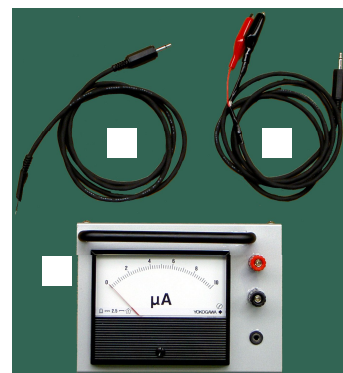
【各部名称と接続例】

指針ズレが有った場合は、「指針微調整ダイアル」を回転させて指針位置を合わせます。ミニドライバ等でゆっくり回転させ、指針を上から覗き目盛りと指針が重なる様に0点を合わせてください。

コロナ株式会社　〒555-0021大阪市西淀川区歌島2-5-43　Tel:06-6471-8141/Fax:06-6471-5826

Website:http://www.coronajapan.net　e-mail:info@coronajapan.net

簡単接続♪

コロナ CORONA
バーナ　フレーム電流計
FLYG-10　標準セット

バーナ　フレーム電流計
FLYG-10　標準セット
外観寸法:150×L110×H73
(ゴム脚含む(mm))
重　量:約　380g

コロナ　バーナ　フレーム電流計　FLYG-10　標準セット内容			
電流計本体	①:FLYG-10	1	
計測用配線	②:FLYG-10-018A	1	プロテクトリレィ用(1.8m)※yamatake製プロテクトリレィへはプラグを確実に挿入のこと
	③:FLYG-10-018B	1	フレームロッド用(1.8m)

ご使用中のガスバーナなどが

「最近不安定だ！」とか、「良く止まる」などの原因として考えられる「燃焼監視信号の不安定さ」という問題に対して、燃焼安全装置の状況を「燃焼確認信号(フレーム電流)」の確認からメンテナンスの必要性や、関連部品交換等の良否判定情報として有効にご利用頂けます。

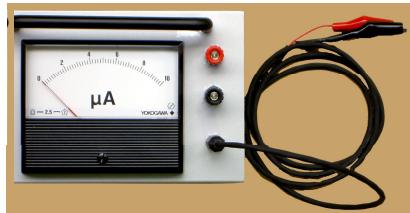
機器構成は、弊社バーナシステムに使用する「フレーム電流」の仕様環境に合わせて接続ケーブル2種類をセットする他、他社バーナシステムへの接続も考慮した汎用端子を準備し、2系統の信号入力回路を装備しております。

弊社バーナへの取付けは、火炎検出装置により②または、③のケーブルをそれぞれメータ本体のジャックに接続するだけです。

接続してから、バーナをスタートしてフレーム電流を確認してください。

コロナ　バーナ　フレーム電流計 FLYG-10　取扱説明書

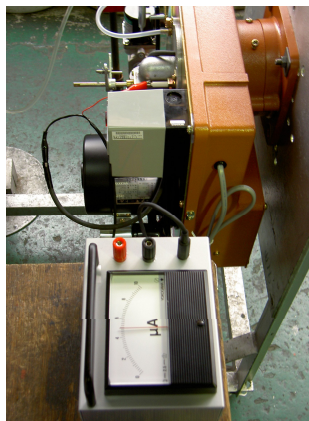
2008.08　初版
コロナ株式会社
技術部

「コロナ　バーナ　フレーム電流計」には、2種類の計測用ケーブルを添付しております。ご使用中の機器に合わせ、「フレーム電流計」本体上面右下の「φ3.5ミニジャック」に接続してご使用ください。

プロテクトリレィ用「φ3.5ミニプラグ」ケーブル(左)
※プロテクトリレィの「ミニジャック」に接続します

汎用「赤黒チューブ付クリップ」ケーブル(右)
※フレームロッドのケーブルに接続します

※端子(赤・黒)は、機器に常設したい場合などの際に使用します。フレーム電流を入力する機器配線を直列に接続して利用が可能です。その際は、「φ3.5ミニジャック」にはケーブルを接続しないでください。誤動作や機器破損の原因となります。

フレーム電流計　レンジ 0～10μA / DC
(一般的なフレーム電流は、概ね 4～5μAで安定しています)
尚、フレーム電流が2μA以下は注意が必要となり、1μA以下の場合は火炎検出が不安定になったり感知ができないため、監視装置(検出機器)の交換を行うなどのメンテナンスが必要です。

フレーム電流計　付属品
汎用「赤黒ミノムシクリップ」ケーブル(上図：右)
プロテクトリレィ用「φ3.5ミニプラグ」ケーブル(上図：左)
各1m　2本

安全使用上の注意

□一般的に、(必ず)電流タイプの機器に接続してご利用下さい。

□電流計は、**必ず直列となる様機器に接続し「属性(赤：+/黒：-)」を間違えない様にご注意ください。**また、過大な電流が回路に流れると機器が破損してしまいます。「10μA」以上の電流が流れる機器や場所には絶対接続しないでください。

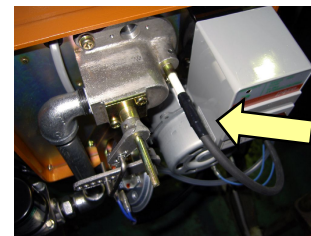
□精密機器同様、衝撃を与えたり落としたりしない様ご注意ください。本体が破損したり、機器故障の原因になります。

□ご利用の用途は、「フレーム電流」の測定以外には使用しないでください。

□常設する場合や、メンテナンス時等でフレーム電流を測定する場合は**必ず本体を水平に置きご使用下さい。**傾けて使用すると、誤動作となる場合があります。

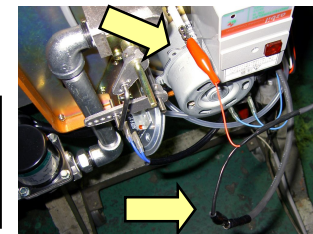
以上取扱にはご注意の上、燃焼安全装置の定期的なサービスなどにご利用頂きバーナシステムを快適にご活用下さい。

□フレームロッドタイプへの接続と計測方法

①計測する「バーナ(図は弊社Mタイプガスバーナ)」の配線を外します。

※点火コードと間違えないように注意！

この場所(矢印部)のコードを外します

②本体側(フレームロッド)の端子に、赤チューブのクリップをはさみます(矢印部)。

※配線を逆接続するとメータが破損する恐れがあります　必ず、確認してください

③抜いたコード側へ、黒チューブのクリップをはさみます(矢印部)。

④配線が間違い無いコトを確認して、バーナの電源を入れ運転を行います。

⑤正常に点火した場合は、電流計の指針を確認し電流値を読み取ります。

※上図に様に、電流値が安定していない場合(振れ幅が大きいまたは低い)時は、火炎検出が不安定なので火炎の状態や、火炎検出器をチェックする作業を行う必要があります。

⑥作業が完了したら電流計を取外し、フレームロッドへの配線を元に戻します。

⑦動作確認のため、バーナを起動し正常に点火し動くことを確認します。

□プロテクトリレィへの接続と計測方法

測定作業は、「フレームロッドタイプ」と同じ要領で行いますが、使用するケーブルは両端とも「φ3.5プラグタイプ」を、「FLYG－10」「プロテクトリレィ」側それぞれの危機にある「ジャック」へ接続してください。

「山武製」は、リレィ本体に樹脂製のキャップが装着されているので、ミニドライバ等で外して接続してください。

詳しくは機器の取扱説明書をご覧になってください。